



### 「ゴール！」

運動会シーズン真っ只中の6月。町内各地で、それぞれ工夫を凝らした運動会が開催されました。写真は17日に行われた弟子屈小学校大運動会での1コマ。5年生が行ったリレーでは、ゴールの瞬間、大接戦に！勝ったのは！？

Public relations magazine

2018.7

No.767

てしかが

### 主な内容

- 「少年の主張」弟子屈大会……………②
- 平成29年度弟子屈町財政の状況……………④
- 協力隊通信……………⑦
- 町民専用エコパスポート……………⑧
- 後期高齢者医療制度のお知らせ……………⑭
- 町税などの納期限/夜間納税窓口開設……………⑳

むかしむか史 (333)

# てしかが歴史写真館 207



底は岩盤でその間から温泉が湧出(池の湯)

## 別格の扱いで利用されてきたセセカ

—松浦武四郎メモリアルイヤー—

松浦武四郎さんは屈斜路コタレへやって来た翌日、地元アイヌのイリツカラを水先案内人として舟に乗り、湖上からの調査を行っています。「岸に沿って東の方を廻り、三十町ほどで温泉(セセカ)について」と記録されているこの場所は、現在の「池の湯」です。「岸に中二十間ほどの池になっており、底は岩盤で、その間から温泉が吹きだしていた。ここにも榎の木の本の皮がたくさん浸してあった」という報告が続きます。

アイヌの人たちが樹皮衣アットゥシの原料として珍重したのが、オヒョウニレです。幹から剥いた後、水分に浸して渋を取り除き、繊維を柔らかくしました。それから細く裂き、緩り、糸玉にしてから織って反物に仕上げます。川も利用したようですが、水温が高く薬効成分が認められる温泉の方が好まれました。池の湯について、明治から平成の時代を生き抜いたアイヌの山本多助氏によると、「他の温泉に勝るといい、遠く北見、釧路、十勝、根室の各地から入湯に来た」と伝えられています。本町出身の更科源蔵氏は、「昭和のはじめまで幣場(祈りの場)があって、厚司(アットゥシ)にする木の皮を浸すときも、湯治のために入浴するときもここに本幣をたて、温泉の神に理由を話してから入浴した」という聞き取りを残しています。

今年の5月、有志による池の湯の清掃が行われました。水を抜き、武四郎さんが書き残してくれた通りのようすが目の前に現れたときは、とても感慨深いものがありました。

てしかが郷土研究会(斎藤)

てしかが 2018.7

毎月1回発行 発行/弟子屈町 編集/まちづくり政策課 ☎482-2913 ㊟482-2696  
〒088-3292 弟子屈町中央2丁目3番1号 URL <http://www.town.teshikaga.hokkaido.jp/>